

令和5年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立川津小学校

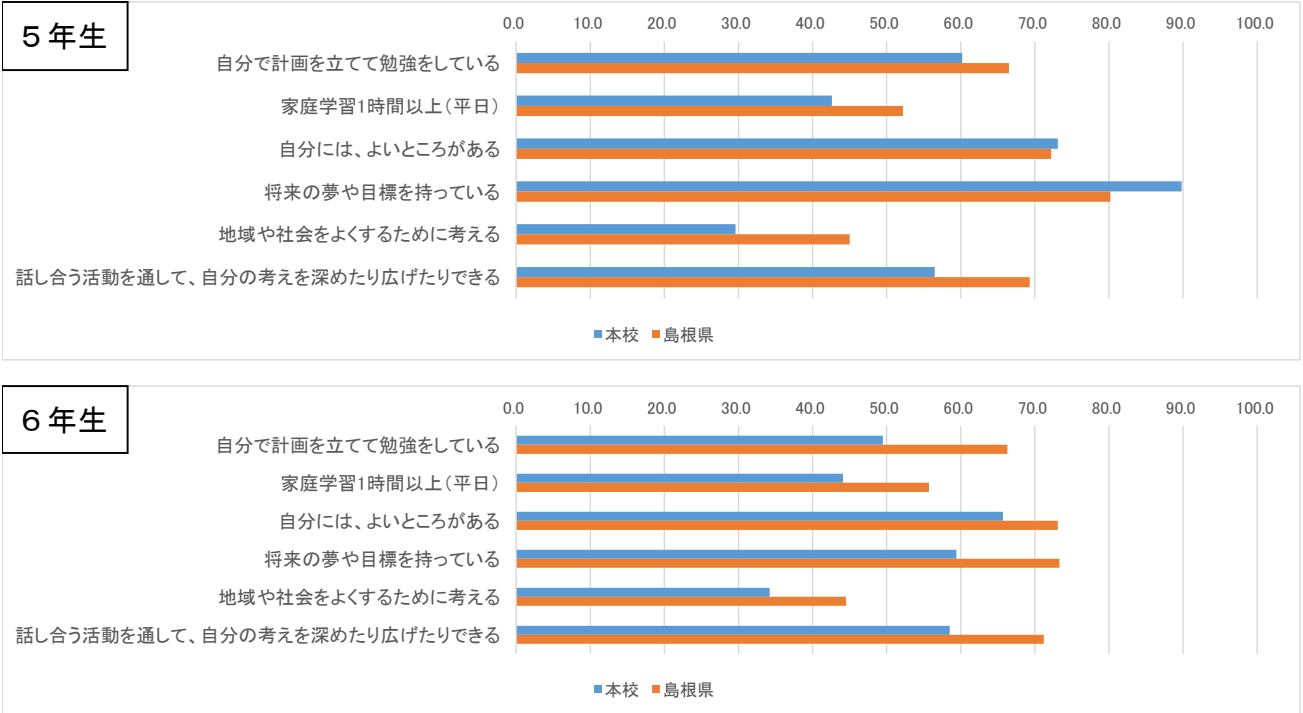
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
国語	○漢字を読む、書く問題がとてもよくできていて、毎月「漢字会」などに繰り返し取り組んできた成果が表れている。「話すこと・聞くこと」領域も正答率が高く、対話を意識した授業の成果が感じられる。 ●言葉の学習に関する問題の正答率が低く、語彙の不足が課題としてあげられる。また、文章を書く問題が、無回答率が30%近いという結果は、県全体と比べても本校の大きな課題である。	○「話すこと・聞くこと」領域がよくできていて、すべての問題で目標値を超えている。意図に応じて話の内容を捉えたり、質問をしたりする力が付いており、対話を意識してきた成果が感じられる。 ●昨年の調査と比較すると、全体的な正答率がやや下がっている。特に、文章を書く問題では、無回答率が20%で県平均より多く、大きな課題である。
算数	○全体的な正答率はやや目標値を超えている。特に小数の問題と図形の角についての問題がよくできていて、基礎的な力は定着しているといえる。 ●体積に関する問題の正答率が低かった。また、「変化と関係」「データ活用」領域で、説明を記述する問題では、無回答も多く、問題場면을把握し、自分で説明することを苦手とする児童が多いといえる。	○昨年に続いて「図形」領域の問題がよくできていた。授業の中で、作図や操作活動などを多く取り入れることを続けてきた成果が表れている。 ●全体的に昨年の調査より正答率が下がっている。昨年はよくできていた「変化と関係」領域が特に低く、定着しきれていなかったといえる。分数の計算も目標値から大きく下がっている問題もあり、課題は大きい。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
意識	○将来の夢や目標をもっている児童の割合が高く、自分のよいところを知っていたり、きまりをしっかり守ったりと全体的に意欲的に過ごせているといえる。 ●話し合いについては、相手の話をしっかり聞いているが、自分の考えを積極的に話せている児童の割合は低いという結果がみえた。	○学習用具を自分で準備したり、家の人に行ってきます」等の挨拶ができたりと、前向きな気持ちがうかがえる。 ●自分で計画を立てて勉強することについては、学力上位・中位層の肯定的回答と低位層のそれとに大きな差がある。将来の夢や目標をもっている児童は反対に低位層の方が高いので、目標に向かって具体的に何をしたらいいかを一緒に考えていく必要がある。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R5学力調査受検者数】

5年生

108

名

6年生

111

名

(欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)